



はいさい

第197号

令和6(2024)年2月29日

編集企画・発行
沖縄防衛局
総務部報道室

沖縄防衛局ホームページ

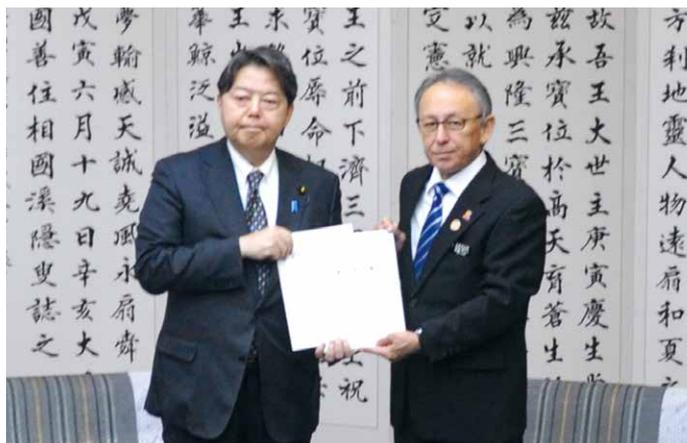


〒904-0295 嘉手納町字嘉手納290番地9 TEL(098)921-8131 <https://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>

林内閣官房長官 訪沖



普天間飛行場視察



沖縄県知事との懇談



名護市長との懇談



嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会との懇談

林内閣官房長官が令和6（2024）年1月27日から28日の日程で就任後初めて沖縄を訪れました。

1月28日には、平和祈念公園において国立沖縄戦没者墓苑等に献花及び平和の礎等を視察後、名護市長との懇談、嘉手納飛行場に関する三市町連絡協議会（沖縄市長、嘉手納町長、北谷町長）との懇談及び嘉手納飛行場視察、宜野湾市長との懇談及び普天間飛行場視察、沖縄県知事との懇談を行いました。

目次

CONTENTS

- ◆ 木原防衛大臣訪沖 2
- ◆ 令和6(2024)年度沖縄関係予算政府案について 3
- ◆ 令和5(2023)年度沖縄防衛局現地研修について 4
- ◆ 普天間飛行場代替施設建設事業について 5

- ◆ Q&A 普天間飛行場代替施設建設事業について 6
- ◆ 辺野古区・豊原区民運動会開催について 12
- ◆ 金武町商工会女性部&キャンプ・ハンセン婦人部
チャリティーパークゴルフ大会について 12

木原防衛大臣 訪沖

木原防衛大臣が、令和6（2024）年2月16日から17日の日程で沖縄を訪れました。

2月16日は、平和祈念公園において国立沖縄戦没者墓苑等に献花を行い、翌17日には、航空自衛隊那覇基地視察、米軍施設・区域の上空視察、基地関連市町村長（名護市長、宜野座村長、金武町長、恩納村長、うるま市長、沖縄市長、嘉手納町長、北谷町長、宜野湾市長、浦添市長、那覇市長）との懇談、沖縄県知事との懇談を行いました。



航空自衛隊那覇基地視察



米軍施設・区域の上空視察



基地関連市町村長との懇談



基地関連市町村長との懇談



沖縄県知事との懇談



沖縄県知事との懇談

令和6(2024)年度 沖縄関係予算政府案について

沖縄防衛局に係る令和6(2024)年度の沖縄関係予算政府案は、次のとおりとなりました。

(単位:億円、%)

事 項	令和5年度 予 算 額	令和6年度 予 算 額	対 前 年 度 増 △ 減 額	対 前 年 度 伸 率
1. 基地周辺対策経費	< 353 > 359	< 379 > 370	< 26 > 11	< 7.2 > 3.1
住宅防音	< 128 > 128	< 131 > 131	< 2 > 3	< 1.9 > 2.2
周辺環境整備	< 225 > 231	< 248 > 239	< 23 > 8	< 10.3 > 3.5
2. 補償経費等	< 1,084 > 1,112	< 1,110 > 1,110	< 26 > △2	< 2.4 > △0.2
(1) 施設の借料	1,061	1,084	22	2.1
土地等の借料	1,049	1,062	13	1.2
その他(道路使用等)	12	22	10	79.0
(2) 漁業補償	12	12	0	1.3
(3) その他の補償等	< 10 > 39	< 14 > 15	< 3 > △24	< 33.1 > △62.5
3. 基地従業員関係	502	477	△25	△5.0
4. 提供施設の整備	< 127 > 62	< 105 > 125	< △22 > 63	< △17.4 > 2.0倍
合 計	< 2,066 > 2,035	< 2,070 > 2,082	< 4 > 47	< 0.2 > 2.3

注：1 上段〈 〉内は、契約ベースです。

2 計数は、四捨五入によっているので符合しないことがあります。また、表中における符号「0」は単位未満です。

3 基地周辺対策経費には、米軍再編関係経費（地元負担軽減分）等に計上した経費を含みます。

令和6(2024)年度特別行動委員会(SACO)関係経費
【沖縄関係】

(単位:億円、%)

事項	令和5年度 予算額	令和6年度 予算額	対前年度 増△減額	対前年度 伸率
1 土地返還のための事業	4	3	△1	△13.8
2 訓練改善のための事業	0	0	0	11.9
3 SACO事業の円滑化を図るための事業	< 0>	< 3>	< 3>	<27.4倍>
	0	1	1	6.6倍
合計	< 4>	< 7>	< 3>	< 68.4>
	4	4	0	4.2

令和6(2024)年度米軍再編関係経費(地元負担軽減に資する措置)
【沖縄関係】

(単位:億円、%)

事項	令和5年度 予算額	令和6年度 予算額	対前年度 増△減額	対前年度 伸率
1 沖縄における再編のための事業	<2,520>	<2,165>	<△355>	<△14.1>
	1,035	1,049	14	1.4
(1) 普天間飛行場の移設	<1,913>	<1,614>	<△299>	<△15.6>
	651	726	75	11.5
(2) 嘉手納以南の土地の返還	< 607>	< 551>	< △56>	< △9.3>
	383	323	△61	△15.8
2 再編関連措置の円滑化を図るための事業	< 51>	< 95>	< 44>	< 87.1>
	83	83	△0	△0.4
合計	<2,571>	<2,260>	<△311>	<△12.1>
	1,118	1,132	14	1.2

注: 1 上段<>内は、契約ベースです。

2 計数は、四捨五入によっているので符合しないことがあります。また、表中における符号「0」は単位未満です。

令和5年度沖縄防衛局現地研修について

当局は、令和5年12月14日から15日の間、令和5年度沖縄防衛局現地研修を実施し、入省5年目の職員17名が参加しました。

12月14日は、航空自衛隊那覇基地において、F15見学、砲台見学、概況説明を受けました。F15の間近でのパイロットからの説明及び同基地内での概況説明を受け、南西域における防空の重要性を改めて認識することができました。

また、当局の補助事業である袖山硬度低減化施設では、宮古島市職員及び委託業者の方から話を伺うことができました。宮古島の水は硬度が高いため、宮古島の人は硬度が高いとのことですが、本施設により低減化させ、各家庭で使用されているとすることで、微力ながら当局も島民の方の暮らしの一助を担っていることが実感できました。

翌15日には、陸上自衛隊の保良訓練場や宮古島駐屯地に

ついて施設や機材の見学、概況説明を受けました。駐屯地司令からのご挨拶及び同駐屯地内での概況説明を受け、自衛隊基地建設等における当局との関連性や離島の自衛隊配備の重要性を改めて認識することができました。

本研修では、当局職員でも直接の担当でなければ普段入ることのない自衛隊施設や補助事業施設を視察することができ、貴重な機会を得ることができました。特に、最前線で任務にあたっている自衛官の方、地元の宮古島市職員の方など、直接現場で働いている方々の生の声を聞くことができ、非常に有意義な現地研修となりました。

研修員は、本研修を通して、防衛省職員としての自覚を改めて認識するとともに、同期の絆を深めることができました。今後は本研修で学んだことを生かして、日々の業務に取り組みでまいります。

航空自衛隊那覇基地



袖山硬度低減化施設(宮古島)



陸上自衛隊宮古島駐屯地



普天間飛行場代替施設建設事業について



キャンプ・シユワブにおける普天間飛行場代替施設建設事業につきましては、平成29年11月から辺野古側の護岸工事に、平成30年12月には埋立工事にそれぞれ着手し、着実に工事を進めてきたところです。

さらに、令和5年12月には、埋立変更承認を得たこと



辺野古側埋立区域 施工状況

から、令和6年1月に海上ヤード(※)を整備するための石材の投入を行い、大浦湾側の工事に着手しました。また、同年2月にはK-5護岸の護岸工事を開始しております。

普天間飛行場の辺野古移設をめぐる問題の原点は、市街地に位置し、住宅や学校で囲まれ、世界で最も危険と言われる普天間飛行場の危険性を一日も早く除去することです。当局としましては、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現し、そして、基地負担の軽減を図るため、引き続き、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境にも十分配慮



K-5護岸施工状況



海上ヤード施工状況

しながら、辺野古移設に向けた工事を着実に進めてまいります。

(※)大浦湾側護岸に使用するケーソンを仮置きするためのヤード

Q&A 普天間飛行場代替施設建設事業について

初めに

普天間飛行場の辺野古移設は、市街地に位置し、住宅や学校で囲まれ、世界で最も危険と言われる普天間飛行場の危険性を除去するために必要です。沖縄防衛局としては、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現するため、全力で取り組んでいるところです。

本コーナーでは、普天間飛行場の辺野古移設に関する当局の取り組みについて、よくいただくご質問にお答えする形でご紹介いたします。

Q1 なぜ、普天間飛行場の全面返還を実現する必要があるのですか？

●危険性除去の実現

宜野湾市に所在する普天間飛行場については、過去の事件や普天間飛行場内での航空機墜落事故などを契機に、平成8(1996)年県内移設と全面返還に日米間で合意しました。この日米合意後も、飛行場近傍の大学へのヘリコプター墜落、小学校への部品落下などの事故が発生しており、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去（＝全面返還）を実現しなければなりません。

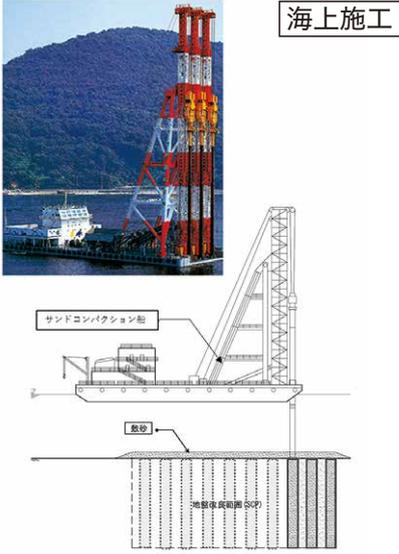
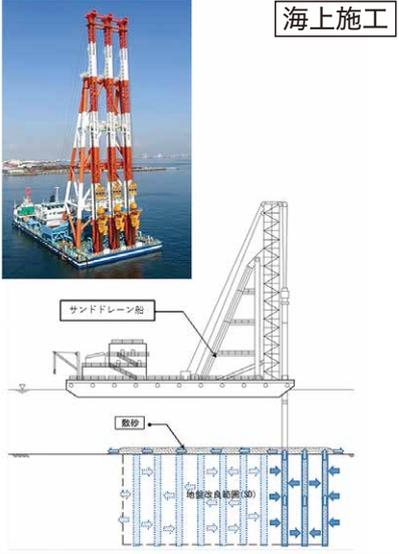
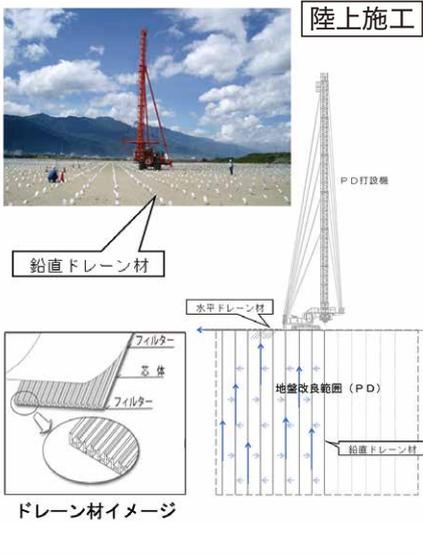
●沖縄の更なる発展

普天間飛行場の全面返還が実現すれば、飛行場の跡地約476ha（東京ドーム約100個分）を活用した、宜野湾市を始めとする沖縄のまちづくりの更なる発展が期待されます。現在、沖縄県や宜野湾市も跡地利用計画の策定に向けて取り組んでおり、内閣府においても県及び跡地関係市町村との緊密な連携の下、跡地利用の推進に向けて取り組んでいます。

Q2 建設予定地は地盤が軟弱とされていますが、代替施設の建設工事は可能なのですか？

●地盤の安定性を確保した工事が可能

キャンプ・シュワブ北側（大浦湾側）の海域については、地盤改良は必要であるものの、一般的で施工実績が豊富な工法（SCP工法、SD工法、PD工法）により地盤改良工事を行うことで、護岸等の安定性を確保することが可能であることが確認されています。

区分	サンドコンパクションパイル(SCP)工法	サンドドレーン(SD)工法	ペーパードレーン(PD)工法
施工イメージ	 <p>海上施工</p>	 <p>海上施工</p>	 <p>陸上施工</p>
施工手順	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ケーシングパイプを貫入させ、所定の深度に達した後、改良材である砂等を投入 ▶ ケーシングパイプを上下に振動させ、砂を残しながらケーシングパイプを引き抜くことにより、締め固めた砂杭を造成 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ケーシングパイプを貫入させ、所定の深度に達した後、改良材である砂を投入 ▶ 砂を残しながらケーシングを引き抜き、砂杭を造成 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 先行掘削後、鉛直ドレーン材を所定の位置に設置 ▶ 鉛直ドレーン材設置後、水平ドレーン材を設置し連結
効果	▶ 地盤の強度増加、地盤の圧密の促進	▶ 地盤の圧密の促進	▶ 地盤の圧密の促進
施工事例	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京国際空港(D滑走路) ▶ 関西国際空港(第I期事業、第II期事業) ▶ 那覇空港(第二滑走路) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京国際空港(D滑走路) ▶ 関西国際空港(第I期事業、第II期事業) ▶ 中城湾港(泡瀬地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 東京国際空港(沖合展開事業) ▶ 中城湾港(泡瀬地区)

これらの工法は、東京国際空港（羽田空港）や那覇空港第2滑走路増設事業でも用いられたものです。

地盤改良に係る設計等の検討に当たっては、有識者の知見も得つつ、当局において、しっかりと検討を行いました。そして、令和2（2020）年4月に、当局から、地盤改良の追加等に伴う埋立ての変更承認申請書を沖縄県に提出し、令和5（2023）年12月には、国土交通大臣が法律に則り承認しました。

キャンプ・シュワブ南側（辺野古側）の海域については、平成30（2018）年12月に埋立工事を開始しました。現在は、大浦湾側の埋立てに使用する土砂の仮置きを実施しているところです。

キャンプ・シュワブ北側（大浦湾側）の海域については、令和6（2024）年1月、工事に着手しました。



●環境保全にも十分配慮

サンゴ類は、護岸で閉め切ると、周囲の海と切り離され、海水の出入りが止まり、その生息に影響が生じます。このため、海域を閉め切る前に埋立区域に生息していた保護対象のサンゴ類を移植することとしています。既に移植を実施した小型サンゴ類については、経過が順調である旨のモニタリング結果を得ています。

既に移植を実施したレッドリストサンゴのオキナワハマサンゴについては、移植先において幼生の放出による再生産が確認されており、移植先の環境に順応していると考えられます。これまでオキナワハマサンゴに関する知見は少なく、生態について不明な点が多かったものの、移植に伴う一連の観察により、貴重な知見を得ることができています。

また、埋立てによってサンゴ類の生息域が減少するため、陸上施設で育てたサンゴ類を大浦湾周辺海域に移植する取組を実施しています。

採苗した幼サンゴは、陸上施設や海中の中間育成施設で順調に成長しています。今後、これら大浦湾周辺海域に移植する方針です。



採取状況



運搬状況



再生産の様子



幼サンゴの飼育



着床具の1辺は1.5cm

絶滅危惧IA類であるジュゴンについては、日々、施工区域へのジュゴンの接近を警戒・監視するなどの環境保全措置を講じています。

その他、工事による改変区域内に生息・生育する重要な動植物種から選定した移動・移植対象種についても、工事の着手前に生息・生育に適した改変区域外の場所へ移動・移植を行っています。

これらの環境保全措置は、部外の専門家からなる「環境監視等委員会」の指導・助言を踏まえて実施しています。引き続き、同委員会の指導・助言を踏まえつつ、環境保全に十分配慮しながら工事を進めてまいります。

Q3 地盤改良工事の追加に伴い、工期や経費はどのように変わりますか？

本事業の工期については、令和元（2019）年12月に

- 変更後の計画に基づく工事に着手してから工事完了までに9年3か月、
- 提供手続完了までに約12年

を要するとお示ししています。（令和6（2024）年1月に変更後の計画に基づく工事に着手）

この工期については、当局において、「普天間飛行場代替施設建設事業に係る技術検討会」（※）の助言を得て、工事計画についてしっかりと検討し、護岸や埋立て等の施工順序の工夫などを行いつつ、国土交通省が監修する一般的な作業能力や作業時間に係る基準を参考にしながら見直したものです。

※護岸や埋立地等の設計・施工・維持管理を合理的なものとするため、外部の有識者より技術的・専門的見地から客観的に提言・助言を行うことを目的として開催。



(※) 地盤改良工事の期間は約4年1カ月（海上からの地盤改良：約3年6カ月、陸上からの地盤改良：約7カ月）

また、経費の概略については、令和元（2019）年12月に、地盤改良工事の追加に伴う工事計画の見直し結果や、当時の工事の状況等を踏まえ、約9,300億円とお示したところです。

いずれも普天間飛行場の一日も早い返還を実現するために不可欠な経費であると考えており、引き続き、経費の抑制に努めながら、辺野古移設に向けた工事を進めてまいります。

項目		金額
環境保全措置等に要する経費		約700億円
埋立工事に要する経費	仮設工事	約2,000億円
	護岸工事	約1,500億円
	埋立工事	約3,600億円
	付帯工事	約125億円
飛行場施設整備に要する経費		約625億円
キャンプ・シュワブ再編成工事に要する経費		約750億円
合計		約9,300億円

普天間飛行場の返還条件には、代替施設の建設以外のものもあり、このため代替施設が完成しても、普天間飛行場は返還されないと聞きましたが、本当ですか？

●返還条件の中核は辺野古への移設

普天間飛行場の返還条件は、平成25（2013）年に日米両政府で作成し、公表した「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において、以下の計8項目が返還条件として示されており、これらについて、着実に進捗しているところです。

そして、返還条件の中核は辺野古への移設であり、その他の条件は、これに関連したものです。したがって、辺野古移設完了後も、普天間飛行場が返還されないという状況は全く想定されません。

普天間飛行場の返還条件と進捗状況

「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」（平成25年）における普天間飛行場返還のための8条件	進捗状況
① 海兵隊飛行場関連施設等のキャンプ・シュワブへの移設	➡ 普天間飛行場にある滑走路や格納庫等の移設のことであり、移設事業の中核部分です。今後埋立工事の進捗に合わせて整備します。
② 海兵隊の航空部隊・司令部機能及び関連施設のキャンプ・シュワブへの移設	➡ 普天間飛行場にある航空部隊の司令部庁舎等の移設のことであり、埋立工事の進捗に合わせて整備します。
③ 普天間飛行場の能力の代替に関連する、航空自衛隊新田原基地及び築城基地の緊急時の使用のための施設整備は、必要に応じ、実施	➡ 普天間飛行場の3つの機能の1つである「緊急時の航空機の受入れ機能」の移設であり、必要となる施設整備について、平成30年10月にその内容を日米で合意しています。なお、令和5年3月までに、築城基地の滑走路延長を除き施設整備を完了しています。
④ 普天間飛行場代替施設では確保されない長い滑走路を用いた活動のための緊急時における民間施設の使用の改善	➡ 緊急事態において民間航空機、自衛隊機及び米軍機による飛行場の利用ニーズが増大し錯綜する可能性があるところ、その円滑な利用調整を行うために必要な法的枠組みは既に整えられています。
⑤ 地元住民の生活の質を損じかねない交通渋滞及び関連する諸問題の発生の回避	➡ 移設に伴う、キャンプ・シュワブ周辺における交通渋滞などを避けるため、日米間で基地のゲートのあり方を含め、協議を進めています。
⑥ 隣接する水域の必要な調整の実施	➡ 移設に伴い、陸上施設の保安や訓練の実施に必要な提供水域を調整することです。日米間で協議を進めています。
⑦ 施設の完全な運用上の能力の取得	➡ 代替施設の運用開始に先立ち、飛行場の安全性を確保するため、米国政府機関による検査（飛行場認定）を受ける必要があります。辺野古への移設に当たっては、米国政府による基準を満たす施設の整備を前提としており、今後、埋立工事の進捗に合わせて必要な施設整備を行います。
⑧ KC-130 飛行隊による岩国飛行場の本拠地化	➡ 普天間飛行場の3つの機能の1つである「空中給油機の運用機能」については、既に、KC-130全機の岩国飛行場への移駐を完了しています。

最後に

当局としましては、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現し、そして、基地負担の軽減を図るため、引き続き、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境にも十分配慮しながら、普天間飛行場の辺野古移設に向けた工事を着実に進めてまいります。

辺野古区・豊原区民運動会開催

日差しが和らぐ秋空の下、心地よい秋風が吹き抜ける令和5年11月5日、辺野古区及び豊原区民運動会が開催され、島袋辺野古区長、宮城豊原区長の挨拶をかわきりに熱戦が繰り広げられました。

辺野古区においては、キャンプ・シユワブからも多数の海兵隊員や



白熱した代表リレー(辺野古区)



選手入場(辺野古区)



競技に参加する当局職員(豊原区)



接戦の職域リレー(豊原区)

家族が辺野古区11班として参加し、区民との交流を深め大会を盛り上げました。

また、当局職員も辺野古・豊原両区の運動会の競技等に参加し、区民とこれまで以上に親睦を深めた1日となりました。

金武町商工会女性部&キャンプ・ハンセン婦人部 チャリティティーパークゴルフ大会について

令和6年1月10日、金武町タームパークゴルフ場にて、金武町商工会女性部とキャンプ・ハンセン婦人部の皆さんによるチャリティティーパークゴルフ大会が開催されました。

大会は、総勢15名の女性陣による真剣プレーが繰り広げられましたが、ティーショットが隣のコースに飛んだり、豪快な空振りがあったりと、珍プレー好プレー続出の賑やかな大会となりました。

本大会の参加費の一部は金武町社会福祉協議会に寄付されるとのこと、主催した金武町商工会女性部の方から「キャンプ・ハンセンの皆さんには、日頃から地域主催のチャリティ活動やボランティア活動への参加を通じ、地元にご貢献して頂き感謝しています。このことをもって大勢の方々知ってもらいたいです。」とお話がありました。

キャンプ・ハンセン婦人部は海兵隊員の婦人方で構成され、地域のボランティア活動にご貢献しており、また、金武町公共駐車場花壇



集合写真



プレー状況

の「花いっぱい活動」や文化交流会として、お茶会や着物の着付け集会などにも積極的に参加するなど、様々な活動を通じ地域住民との友好の輪を広げております。